

2 学年 保健体育「器械運動（跳び箱）」指導略案

単元・題材名	器械運動（跳び箱）	生 徒	2 学年 生徒 2 4 名
		場 所	体育館
日 時	平成 27 年 10 月 13 日（火） 5.6 校時	指 導 者	T1:山口 T2:住谷 T3:金子 T4:小林 T5:山田
単元の全体目標	○ さまざまな跳び方を知り、飛ぶことができる。 ○ 自分で課題を見つけ、仲間と練習をすることができる。		
本時の目標	○ 自分の課題技に挑戦することができる。 ○ 仲間と教え合いながら練習に取り組むことができる。		
協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (25 分)	集合・整列 始業挨拶 出席確認 準備体操 (ストレッチ)	○ 2 産日直号令 ○ 体育館 5 周をする。 ○ ラジオ体操をする。 ※体育委員は前で体操をする。	○ 号令の際に、必ず周りを見て列が揃っているのかを確認してから、させるように言葉がけをする。 ○ T2～T5 は、生徒と走る。 ○ 前で体操をするように連絡する。 ○ ストレッチは T1 が行う。	ラジオ体操 CD
展開 (50 分)	前時の復習	○ 集合させホワイトボードを見る。 ・前回の学習ノートを確認する。 ・飛び方の確認	○ 説明をする前に学習ノートを配布する。 ○ 前回の反省を生かして取り組むように促す。 ・前回の授業で、どの技をどこまで出来たかを確認させる。	ホワイトボード 学習ノート 筆記用具 マット③ 跳び箱④ ロイター板③ セーフティー マット
	本時の説明	○ 本時の内容を確認する。 ・取り組む技を学習ノートに書く。 ・本時は、G で活動することを確認する。 ・跳び箱をホワイトボードに書いてある通りに協力して配置する。	○ 取り組む技を確認し、学習ノートに記入させる。 ・できない技に進んで取り組むように説明する。また、仲間とどのようにすればできるようになるのか必ず考えながら取り組むように説明する。 ・道具の出し入れの際は、必ず指導者が観察をする。	
	練習	○ G 別に課題技の練習を行う。 ・ポイントを確認しながら取り組む。 ・ <u>仲間とどのようにすればできるのか考えながら取り組む。</u> ・ロイター板の使い方、台上へ飛び乗り飛び降り、手の着く位置、またぎのりの練習。	○ 指導者は、各担当場所に分れる。 ・台上前転～T1(山口) ・抱え込み跳び～T2(住谷) ・開脚跳び～T3(金子)・T4(小林) ・手の着く練習～T5(山田) ※跳び箱の左右どちらかには指導者がつく。	
整理 (25 分)	片付け 整理体操 振り返り	○ 全員で使用した道具を片づける。 ○ 学習ノートに今日の反省を書く。 ・ <u>取り組んだ課題技の評価と感想を書く。</u> ・ <u>各担当の先生に技の評価をしてもらう。</u>	○ 安全に配慮して片づけるように言葉がけをする。 ○ 書くのが難しい生徒に対し、言葉がけをする。 ・技の評価をする。 ○ 次回の内容を説明する。	ホワイトボード 学習ノート 筆記用具
	次回予告	○ 次回の予告を聞く。	○ 次回の内容を説明する。	
	終業挨拶	○ 2 産日直号令	○ きちんと整列させる。	

※練習中に課題技ができるようになったときは、チェックシートの項目に日付と○を入れて、次の課題技を書かせ次の技に行くように言葉がけをお願いします。

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	体育「器械運動（マット）」	生 徒	2 学年
		場 所	体育館
日 時	平成 27 年 10 月 13 日	授 業 者	山口 晋
今回は器械運動（跳び箱）ということもあり、生徒に対して苦手意識が強い種目であった。そこで、授業も 2 時間目ということもあり前回の活動を踏まえて、今回は能力別にグループを分けて展開した。展開の中で、生徒同士が教え合う活動を行うことができるように設定したが、一部の生徒しか取り組めていない状況であったが、生徒に言葉かけをすることで意識して取り組むことができていた。また、生徒一人ひとりが課題技をできるようになるために一生懸命に練習する姿が見られすごく良かった。だが、協同学習の観点を踏まえての授業の展開ができていなく、改善をしなければいけない部分が多々あった。特に、跳び箱は、どうしても個人で練習する要素が大きく協同で学習を行うことが難しいと感じた。そこで、以下の二つの反省を踏まえて、今後の授業に生かしていきたいと思った。 1. 競技者が、すぐに F B (フィードバック) することができるように情報機器を活用しながら運動学習を生徒同士できる環境を整える。 2. 多くの観点で、生徒同士が自発的に意見交換の場所を設定していく。			

平成 27 年度 産業科 3 年 作業学習 (58 回目) 指導略案

日 時	H27 年 10 月 13 日 (火) 13:05 ~ 14:45	場 所	窯業室	指導者	T1: 田中 T2: 高橋 T3: 穴田
単 元 名	学校祭販売の生製品を作ろう	題 材 名	やすりがけ		
本単元の指導の重点					重点
指導観点	① 正しい手順や方法で作業を行い、集中力や作業に必要な体力などの基本的な能力を身につけさせる。				◎
	② あいさつ、返事、報告などの作業をするのに必要な基礎となる力を身につけさせながら、仲間と協力して取り組む姿勢を育てる。 対応の仕方など基本的な行動様式を育成する。				◎
	③ 健康・安全指導を徹底するとともに、整理整頓、清掃などの習慣を育成する。				◎
	④ 生産から販売、納品までの流過程の学習を通し、流通の仕組みを体験させ、働く喜びや意欲の向上を図る。				
	⑤ 「作業強化日」「現場実習」を通し、自ら課題を理解するとともに、課題解決への意欲を高める。				
	⑥ 販売学習を通し、実践的な態度や勤労意欲を育成する。				
本時の目標	① 仲間の話を正しく聴いたり、自分からわかりやすく話したりして仲間と共に仕事に取り組むことができる。 ② 自分の役割にすすんで取り組み、確実にやり遂げるとともに、仲間に働きかけながら最後まで行動することができる。 ③ 自分のまわりの作業の進み具合を分析し、その状況に合わせて正しく行動することができる。 ④ 作業学習の中で、日常的に指摘をされている改善すべき点を念頭に描き、それを実行しながら仕事に取り組むことができる。				
共同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」				
過程・時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具・服装	
導入 (10 分)	作業の用意 挨拶	○ 本時の学習内容に応じて道具類の用意をする。 ○ 号令に合わせて挨拶をする。 ○ T1 からの説明を聴く。	○ 用意する様子に応じて言葉をかける。 ○ 本日の作業内容や注意点を話す。	作業着 (Tシャツ可)、 筆記具、エプロン、タオル	
展開 (80 分)	本時の学習 掃除	○ 全員でやすりがけをする。 ・製品全体にやすりをかけ終えたら、 <u>周りの仲間に確認をしてもらう。</u> ・確認の依頼を受けたら、 <u>やすりのかけ残しがあるかどうかを確かめて伝える。</u> ・かけ残しがあったら、再度、やすりがけをする。 ・かけ残しがなかったら、近くの教師に確認を依頼する。 ・ <u>かけ残し部分や方法をアドバイスし合う。</u> ○ やすがけが済んだ製品を水拭きをして、やすりがけが済んでいない製品と区別して保管する。 ・ <u>どのように区別するかを相談する。</u> ○ 道具類を片付けて、作業室の掃除をする。 ・ <u>協力して掃除を進める。</u>	○ やすがけをする時の注意点について質問をしながら、完成させる。 ○ 確認を依頼されたら、かけ残し部分を指摘したり、かけ残しがなければ完了の指示を出す。 ○ 必要に応じてアドバイスする。 ○ あらかじめ、水拭き役を決めておくように指示をする。 ○ 手伝ってほしい旨を伝えられた場合には協力する。	新聞紙、紙やすり、 バケツ、雑巾、 たらい、水拭き用雑巾	
整理 (10 分)	まとめ・反省 挨拶	○ 作業の反省を聴く。 ○ 挨拶をする。 (時間に余裕がある場合、作業ファイルを記入する)	○ 作業中の良かった点や改善点などを伝える。 ○ 挨拶をする。		

記録

A		B	
C		D	
E		F	
G		H	
I			

前時・平成27年 月 日（金）No. の記録・評価 【単元：学校祭販の生産品を作ろう】

		目 標	手立て	記録・評価	備考
A	作業	製作では最後まで丁寧に 作業中は最後まで集中して	・言葉がけして意識させる ・なごませる言葉をかけて気づかせる		
	態度	言葉をかけ合って協力する	・言葉がけの必要性を伝える		
B	作業	将来の生活を思い描きながら、 作業の終了まで全力で取り組む	・言葉がけして自立した姿を意識させる		
	態度	アドバイスや支えるなど援助する ことができる 互いに協力して作業を進める	・仲間と協力するよう言葉がけする		
C	作業	作業を成し遂げるために必要な 自分の課題を意識しながら	・課題や注意点を示す ・メモさせる		
	態度	仲間に言葉をかけ合いながら 状況を判断して取り組む	・判断するヒントを与える ・うまくできたらほめる		
D	作業	常に丁寧に 作業場に合った声量や明るさで 返事や報告	・声量や明るさが不適切な時は指導		
	態度	誰とも言葉をかけ合って協力 効率よく作業に取り組む	・常に言葉がけして意識させる		
E	作業	正確に手早く取り組む 作業場に合った声の大きさや明 るさで返事や報告	・目標の時刻を設定する ・常に言葉がけして意識させる		
	態度	誰とも言葉をかけ合って協力 効率よく作業に取り組む	・不適切時は例示しながら指導		
F	作業	指示内容を正しく理解 不確実には再確認をしながら	・正しく理解したかどうか確認する ・不適切時は指導		
	態度	仲間に言葉をかけ合いながら 状況を判断して取り組む	・言い方や表情が不適切なときは例示し ながら指導		
G	作業	体調や気分によろされないで 最後まで気持ちを集中させる	・言葉がけして意識させる ・できた時はほめる		
	態度	誰とも言葉をかけ合って協力 効率よく作業に取り組む	・効果ある言葉がけした時はほめる		
H	作業	手早く正確に取り組む 返事や報告は適度な間隔で	・常に言葉がけして意識させる ・できた時はほめる		
	態度	仲間に言葉をかけ合いながら 状況を判断して取り組む	・言葉がけがたりないなど、不適切な時は 例示して指導		
I	作業	困った時やわからない場面で は、すぐに相談する	・メモさせる ・正しく対応できたときはほめる		
	態度	仲間に言葉をかけ合いながら 状況を判断して取り組む	・言葉がけがたりないなど、不適切な時は 例示して指導		
前時の 目標		① ②	<授業者評価： > <授業者評価： >		

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	作業学習「学校祭の製品を作ろう」	生徒	産業科3年生徒9名
		場所	窯業作業室および作業室1
日時	平成27年10月13日（火）5～6校時	授業者	田中 龍右エ門
9名全員が素焼き後のやすりがけに2時間取り組んだ作業であった。このやすりがけは本焼きのための釉薬がきれいに乗るために重要な作業であり、成形時のスポンジ跡とバリを取り去る作業工程である。完全なやすりがけの着眼点は、（1）手本と同じ程度の滑らかさに仕上がっているか （2）太陽光線や蛍光灯の明かりに照らして、ザラザラ面やスポンジ跡が残っていないか （3）仲間に（1）と（2）について確認してもらい、十分な仕上がりにになっているか 以上、3点を満たす仕上がりが基準となる。 ①生徒がお互いに、作業の力量に関わらずにやすりがけの不足部分を指摘し合う活動や確認し合う時の言葉でのやり取りは十分に見られたと感じられる。しかし、やすりがけの不足部分を確認して伝えたものの、やり直しをしている最中に指摘された個所を見落としとしてしまい、また、確認した生徒にとっても、再度確認を求められたときに指摘した部分を忘れていたり見落とししたりするなど、確認する側にも問題点と思しき部分が存在していた。また、「手本と同じ程度」というような、判断する側の人間の塩加減で済まされがちな部分も見られた。 ②確認を願い出る者、確認をして指摘した者、共に2回目の確認時までその個所と状況を忘れないための方法として、指摘するときに鉛筆で印をつけておくことで両者ともに忘れずにいることが可能と考えている。また、「手本と同じ程度」と比べて到達度を判断させているが、作業における疲れや集中力の低下等の影響であやふやな判断になってしまい、幾か所ものかけ残しが見落とされる場合も出てくることも考えられる。指導者の目で最終確認をすることも可能であるが、仕事上の責任を持つのも重要なことであるので、全員の目で最終確認することも取り入れていかなければいけないとも考えられる。もしくは、一定の基準を設けるのであれば、滑らかさを測定する機器の導入も必要である。			

農業科指導の重点(平成27年度)・本時の重点ポイント(最重点◎、重点○)		
本時の重点ポイント	☐	(1)自立に必要な基礎的学力や社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身に付ける。(知識・技術)
	☐	(2)栽培から販売までの過程を学習することを通じ、やりがいや生きがいを見いだし実践的な労働意欲を高める。(職業)
	☐	(3)整理・整頓・清掃の生活習慣を身に付けるとともに、健康・安全に気を付ける。(心と体)
	☒	(4)姿勢の保持、集中力、持続力、集団行動などの基本的作業態度を身に付ける。(職業)
	☐	(5)「作業強化日」「現場実習」を通して自己の課題を理解し、卒業後の職業自立に向けて自ら課題解決をしようとする姿勢を身に付ける。(自己内省)
	☐	(6)様々な作業体験を通して自己の理解力を高め、卒業後の職業生活への見通しを持たせ、自立への興味・関心を持つ。(自己理解)
	☐	(7)ホームルームや他教科との連携を図りながら、社会人として必要なコミュニケーションの取り方を身に付ける。(コミュニケーション)

本時の活動：花壇撤去・カボチャ磨き

本時の目標：玄関前花壇とハウス横花壇の撤去。花壇の時期が終わり冬に向けての準備を理解する。
：学校祭販売物カボチャの磨き。消費者の気持ちを理解しながら取り組む。

協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」
---------	--

本時の展開			
配時	指導内容	学習活動	備考
10分 13:05 75分	集合	・班長の号令 ・本時の作業内容の確認をする。作業時間の流れ(反省)を確認	
13:15	玄関前花壇とハウス横花壇の撤去 カボチャ磨き	・作業の説明を作業室で行い、 <u>2グループに分けて作業を行う。</u> ・玄関前グループとハウス横グループにわかる様に指示を出す。(3年農業科9名で話し合いをさせ、グループを決めさせる) ・使用する道具の説明をする。 (説明後各グループにわかれて準備を行う) ・花壇終了後集まり カボチャ磨きの説明を行う。 ・道具やカボチャの準備を行い作業を開始する。 (学校祭で販売する商品だと意識しながら作業に取り組ませる)	生徒が中心となりグループ決めや道具の準備を行い、集団行動や実践的な労働意欲を身につけられるようにする。わからない事は、先生に必ず聞くように指導する。
10分 14:30	集合 反省	・班長の号令 ・各先生からの振り返りコメントや反省を行う。	

教師	評価の観点(本時の目標から)	評価	授業記録
		3	
		3	
	個別指導目標&評価の観点	評価	生徒個別授業記録
A	作業に取り組む姿勢・態度に協調性をもち、積極的に取り組むことができる。		授業記録
	評価の観点()		
B	灌水作業やボット上げ作業などで、仲間と協力しながら自分の考えをもって行動することができる。		授業記録
	評価の観点()		
C	単調な作業でも、飽きることなく作業を続け、創意工夫ができる。		授業記録
	評価の観点()		
D	相手と会話するときなど、要点をまとめて話すことができる。		授業記録
	評価の観点()		
E	指示内容を適切に理解しながら、作業に取り組むことができる。		授業記録
	評価の観点()		
F	作業を考え誰とも協力し合うことができ、意見も聞き入れ取り組むことができる。		授業記録
	評価の観点()		
G	就職後を考え、積極的に先頭に立ち作業をすすめ、報告や連絡を的確にすることができる。		授業記録
	評価の観点()		
H	人や場面が変わっても、自分からグループの中心となって主体的に学習に参加することができる。		授業記録
	評価の観点()		

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	作業学習「花壇撤去」「カボチャ磨き」	生徒	農業科3年生徒9名
		場所	作業室・玄関前花壇・ハウス横花壇
日時	平成27年10月15日（木）5～6校時	授業者	小原 政住

農業科では、作業学習において、野菜と花の栽培について取り組んでいる。2年間継続して取り組んでいるので、現在では、一通りの作業（播種方法、ポット上げ方法、灌水方法など）に取り組むことができています。しかし仲間と協力しておこなう作業やわからないまま作業を進めてしまうなど・態度面での課題がある。能力別にグループ分けをせず、クラス全体でのグループ分けを行い作業学習を行っている、周りとの協力体制やわからない事などをすぐに聞ける環境を作ることによって生徒間の協力や、就労したあとに困らないような指導を行っている。

協同学習「対面的なやりとり」において、対面的なやりとりは成立しているが、より活発化する方策を工夫してみてください。との意見があった。協力して行う作業ではあるが、やり慣れていない作業だったのか、活発化はなかった。もう少し慣れた作業だと雰囲気や経験があるため違う形になったと思う。クラスの雰囲気は、すでに出来上がっているなので、自分がクラスに合わせていくほうが良いと感じる。ソーシャルスキルなどもあるが。同じ作業を繰り返すことによってスキルは上がって行くと思う。農業科は、色々な作業があるため、1つ1つの作業に観点をしっかり持ち、授業を組み立てて行かないと、協同学習の目的を達成できないような感じがする。難しいこともあると思うがしっかり組み立てていこうと思う。

平成27年度 3学年 生活家庭科作業学習授業略案

日 時	平成27年10月20日(火) 13:05～14:45		場 所	作業室2	指導者	T1:後藤 T2:阿部 T3:青山
単 元 名	紙すき (長形3号)		題材名	作業(社会実践)		
本時の目標	○仲間と協力して作業ができる。○自他ともに失敗したときの心境や励ましの言葉を考えることができる。					
協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「個人の責任」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」					
時刻	学習活動					
13:05	・始業あいさつ ⇒ 「気をつけ」「これから作業を始めます」「礼」(日直の号令により、全員あいさつ) ・「後藤先生、お願いします。」(日直) 出席確認、作業内容、終了時間を伝える。 前回まとめた模造紙を軽くおさらいする。(失敗したときの心境や次への言葉かけ) ・「気をつけ」「おねがいします」(日直の号令により、全員あいさつ) ※「作業開始!」(MT)「ハイ!」(生徒全員) 作業日誌に目標を書く!!				<生徒服装・持ち物> ・作業服 ・筆記用具 ・作業ファイル ・デジタルはかり ・お花紙・牛乳パック ・ミキサー・タイマー ・ピンセット ・あみじゃくし ・すき枠・すき枠台 ・アクリル板・ローラー ・ネル生地・不織布 ・バケツ	
展開 13:15	① ◎紙すき ○作業分担 ・ミキサー・・・A、D 水の量を黄色い線まで正確に量れるように生徒同士で確認をしながら行う。 ・計量・・・E、H 10.5g 青 計量に牛乳パックを乗せバルブを10.5g量る。どのようにしたら手早く計量できるかを協力して行う。 ・すき枠・・・C、I 手早さを求めつつきれいにすくためにはどのようにすれば良いかを話し合いながら工夫して作業する。 ・ローラー・・・B、F、G ネル生地を何枚使うかを事前に話し合い、ローラーがけを行う。失敗した際には何が原因なかったのかを考える。 *余計なおしゃべり禁止、言葉遣いも徹底。②					
14:15	『掃除のしかた』 *掃除の時間は生徒に決めてもらう。 ・掃く ・モップ ・机拭き、床拭き、黒板拭き ・ゴミ捨て *必ず報告させる。そして指導者による点検					
14:30 14:40	・作業日誌作成 ・全体反省 ・「気をつけ」「これから作業の反省を始めます」「礼」(日直) ⇒ 「後藤先生、お願いします。」(日直) ・「阿部先生、お願いします」(日直)「青山先生、お願いします」(日直) ・終業あいさつ ⇒ 「気をつけ」「これで作業の反省を終わります」「礼」「ありがとうございました」(日直の号令により、全員あいさつ) ※「お疲れ様でした、解散」のような締めのことば。(MT) ・プレートを変えて、教室に戻る。					
個別の指導目標						
A	・作業内容、工程を仲間と確認することができる。 ・指導を受けた内容を理解し、改善しようと努力することができる。		F	・周囲の状況を確認して的確な判断ができる。		
B	・任された仕事に責任をもって取り組む。		G	・安全に気をつけて協力して効率よく作業ができる。		
C	・自分の目標や課題を意識して作業に取り組む。		H	・よそ見や無駄な話をしないで作業をする。 ・作業の種類を問わず、与えられた作業に取り組む。		
D	・自信をもって作業ができる。		I	・指導を受けた内容を理解し、改善しようとする。		
E	・自分の目標や課題を意識して作業に取り組む。					

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	作業学習「紙すき 長形3号」	生徒	3学年 生徒9名
		場所	作業室2
日時	平成27年10月20日(火) 5、6校時	授業者	後藤 倫弘
① 授業用に掲示物を作成しました。(失敗したときの心境や他人からどう思われているか?)協同で作業することの大切さを仲間との話し合いや関わりの中で意識させました。概ね達成できたのではないかと思います。「紙すき」の授業で一番重要としている「自己確認」「報告」を仲間に一度確認してもらってから教師へという流れにすることで「責任」も感じてもらえたと思います。 改善すべきところは、3年生段階ということで教師側の支援を極力減らして授業を組み立てたが、肝心なところでのアドバイスが減ってしまったと感じています。生徒間で話し合いをしている最中に修正が必要な場面を見逃してしまいました。T2、T3ともう少し綿密に役割を確認しておけばよかったと反省しています。 ② そのために、授業前にどのような授業展開をするか目的意識をより共有して授業を行います。必要であれば教員同士で一度プレ授業を行うことも考えています。			

3 学年 体育「器械運動」指導略案

単元・題材名	マット運動	生 徒	3 学年 生徒 2 6 名（見学 2 名）
		場 所	体育館
日 時	平成 2 7 年 1 0 月 2 6 日（月） 5 ・ 6 校時	指 導 者	T1：鈴木 T2：田中 T3：後藤 T4：小原
単元の全体目標	○自分のできる技を高め、違った技にも挑戦できる。 ○周りの安全に留意して運動することができる。		
本時の目標	○ 安全に留意して運動に取り組むことができる。 ○ 自分ができる技を連続技として行うことができる。		
協同学習の観点	①「互恵的な相互依存性」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (20 分)	挨拶 本時の説明 準備運動	・事前にマットを準備しておく ・ステージ前に各クラス 2 列縦隊で並ぶ ・農業科の日直が号令 ・本時の流れを説明する ・ラジオ体操（体育委員） ・ストレッチ ※ 2 人 1 組などを行う ・<u>体づくり運動</u>	・ T 1 が生徒の前で行う ・ T 1 が演示をする	
展開 (60 分)	グループ練習 連続技を披露	・ 3 グループに分かれ練習をする。 【後藤 G】 ※伸膝前、後転、各種倒立回転系 など 生徒 7 名 【鈴木 G】 ※三転倒立、側転、伸膝後転 など 生徒 1 0 名 【田中 G】 ※前転、バランス など 生徒 7 名 ※ 2 名は見学 ・ <u>各 G で練習した技の連続技をする</u>	・ T 4 は田中 G の補助に入る	・ マット ・ 笛 ・ ロイター版 ・ 跳箱 1 段目
整理 (10 分)	片付け 整理体操 挨拶	・ 各 G で片付けを行う ・ ストレッチを行う ・ 農業科の日直が号令	・ T 1 が行う	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	体育 器械運動「マット運動」	生 徒	3年 生徒25名
		場 所	体育館
日 時	平成27年10月26日（月）5、6校時	授 業 者	鈴木 貴史
生徒の能力差がある種目であるため1年次より3グループで実施している。生徒も3年目ということで準備や実施の仕方を理解しているのでスムーズに授業を進めることができる。また、STも体育免許保有者が2名おり、グループ別に行っても、そのグループにあった技に取り組める。 授業の導入部分では、必ず実施する種目に合った体づくり運動（ストレッチや2人1組の活動）を行っている。継続して行っているが、柔軟性などで課題が見られる生徒が多い。週1回（2時間）の授業でどこまでできるのかということもあるが、今後の授業でも継続して行っていく。 今後としては、実施する種目が変わっても、MTやSTの役割をはっきりさせ、グループ（能力別など）に分け、生徒の実態にあった指導を行えるよう担当者間で連携を深めていけるように事前の打合せを徹底する。			

3 学年 国語「漢字のでき方を知ろう」学習指導略案

単元・題材名	「自分達の漢字を作る」	生徒	産業科 3 年生徒 2 名 農業科 3 年生徒 1 名 家庭科 3 年生徒 2 名
		場所	視聴覚室
日時	平成 27 年 10 月 27 日（火）2 校時	指導者	T1：高橋 詩織
単元の全体目標	○漢字の構造や部首を理解し、興味・関心を持つことができる。		
本時の目標	○ 仲間と協力して話し合い、言葉や文字で自己表現をすることができる。 ○ 漢字に対する苦手意識を克服し、興味関心を持つことができる。		
協同学習の観点	①「 <u>互惠的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「個人の責任」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (15 分)	挨拶 テスト 前時の復習	○ 指名された生徒は挨拶を行う。 ○ ミニテストを行う。 ○ 前回学んだことを確認する。 ・必要があればプリントに記載する。	○ 生徒を指名する。 ○ プリントを配布し、机間巡視をする。 ・状況を見てテストの時間を調整する。 ○ 基礎的な復習と前回考えた漢字を板書し、意味を確認する。	○ テスト用プリント ○ 前回のプリント ○ 板書
展開 (25 分)	本時の学習 (漢字の作成)	○ 本時の学習について知る。 ・ <u>2 年生の自分を振り返り、意見交換。</u> ・ <u>辞書やプリントを参考にし、各漢字を組み合わせ、一文字の漢字を作成する。</u> ・ <u>作成した漢字の意味を考える。</u> ・実際に WB に書いて発表する。 ○ 机を移動し、全員で話し合う。 ○ 3 年生の自分を振り返る。方法等は同上。	○ 板書した 4 つのルールを伝える。 ・全員で話し合う ・部首を必ず置く。 (部首に関しては、プリントに記載したものから選ぶ) ・詰め込みすぎない ・プリントや辞書を参考にしても良い。 の 4 点 ○ 必要に応じて助言や板書を行う。	○ 板書 ○ プリント ○ 辞書 (1 冊)
整理 (5 分)	まとめ 次回予告 挨拶	○ 全学年を通しての漢字を振り返る。 ○ 単元全体のまとめを聞く。 ○ 次回は物語文を行うことを知る。 ○ 指名された生徒は挨拶を行う。	○ 振り返りは教師が行う。 ○ プリントを回収する。 ○ 学校祭後は物語文「のらねこ」を行う。 ○ 挨拶する生徒を指名する。	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	国語「自分達の漢字を作る」	生徒	3学年 産業科2名、農業科1名、生活家庭科2名 計5名
		場所	視聴覚室
日時	平成27年10月27日（火）2校時	授業者	高橋 詩織
昨年度まで全員が漢字に対する苦手意識を強く持っていたが、今年度から他教科等も通して少しずつ興味・関心を持つようになり、書ける漢字が増えてきた。そこで、3時間構成の単元の中で漢字の成り立ちや部首の構造の基礎を学習し、本時ではその応用として自分たちの漢字を作る授業を行った。 授業では、どの生徒も積極的に発言し、前回のワークシートや学習内容を振り返りながら取り組む様子が見られた。また、部首の構造に関してはほぼ全員が定着しており、意味やどのような場面で使用するかを理解することができている。 改善点として、あらかじめ話し合いや作業の前に時間指定をするべきだった。想定よりも生徒間での発言が多く、一つ一つの工程に時間を多く要する中で明確な時間を設けておらず、時間配分のバランスが悪くなってしまった。そのため、3回漢字の作成を行ったが、時間の都合で早急に答えを求めてしまう部分もあり「3回目は自分たちの力で考える」という目的が置き去りになってしまった。授業の内容を詰めすぎたことも要因の一つである。 今後の授業では、生徒の実態に即した時間配分とそれに見合った学習内容を考え、生徒が余裕を持って活動できる授業づくりを心がける。			

1 学年 数学「時間の経過を計算してみよう」指導略案

単元・題材名	「時間の経過を計算する」	生徒	産業科 1 年生徒 2 名 農業科 1 年生徒 3 名 家庭科 1 年生徒 1 名
		場所	産業科 1 年教室
日時	平成 2 7 年 1 0 月 2 8 日（水） 4 校時	指導者	T1：工藤大地
単元の全体目標	○ 時間の単位を理解し、計算することができる。		
本時の目標	○ バスの時刻表を活用し、時間の経過を計算することができる。 ○ 考えた答えを、分かりやすく相手に伝えることができる。		
協同学習の観点	①「互恵的な相互依存性」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「個人の責任」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (10 分)	挨拶 計算テスト	○ 指名された生徒は挨拶を行う。 ○ 計算問題を行う。	○ 生徒を指名する。 ○ プリントを配布し、名前を書くよう伝える。準備が出来次第開始し、時間を計測しながら机間巡視を行う。	○ 計算プリント
	前時の復習	○ 前回学んだことを復習する。	○ 前回学んだことについてプリントを使い、確認する。	○ プリント
展開 (30 分)	本時の学習	○ 本時の学習について知る。 ・バスの時刻表と問題が記載されたプリントを配布し、時刻表の見方を知る。 ○ 問題を個人で解く。 ○ <u>グループになり、まだ解き終わっていない生徒がいれば教え合う。</u> ○ <u>3 題ある問題の中から、教師が選んだ問題について、相手グループに分かるように解説するための話し合いを行う。</u> ○ <u>お互いのグループに解説を行う。</u>	○ 復習したプリントと本時で配るプリントを見比べながら、見方を確認していく。 ○ 机間巡視を行う。 ・悩んでいる生徒がいれば、声をかけ助言をする。 ○ 活動する前に、ただ口頭で説明するだけでなく、どのように答えを導き出したのか、計算式なども黒板に板書するよう伝える。	○ プリント ○ 時計
整理 (5 分)	まとめ	○ <u>お互いの発表を見て良いところを各グループの代表者が発表する。</u>	○ 各グループの代表者 1 名を指名する。	
	次回予告	○ 次回は本時で配布したプリントの続きから行うことを伝える。	○ プリントは回収する。	
	挨拶	○ 始めの挨拶をした生徒が行う。		

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	数学「時間の経過を計算しよう」	生徒	産業科1年生徒2名、農業科1年生徒3名、生活家庭科生徒1名
		場所	産業科1年教室
日時	平成27年10月21日（水）4校時	授業者	工藤 大地
時間の経過については以前にも学習している内容である。今回はグループになって問題を解き、解答できたらどのように考えたのかを黒板を使ってお互いに説明し合う取り組みとした。黒板に自分の解答を書いて周囲に説明することで別の解答方法を知ることができると考え、実践した。授業中は図を書きながら考えるよう生徒に伝えたが、図を書いて考えることができる生徒とどのように図を書いて考えればよいか分からない生徒に分かれ、十分に考える時間を確保できずに授業が終了してしまった。今後は單元ごとの生徒の実態を十分把握した上で活動を取り入れていきたい。また、新しい活動をするときは具体的に見本を見せたり、十分に説明をし、質問する時間を設けた上で生徒の活動に展開していける授業づくりにする。			